



社会システムグループ

堅調な需要を取り込み、
生産力を高めることで
収益力の改善を目指します

専務執行役員
社会システムグループ長 毛綿谷 聡

経営指標

2024年度実績

受注高

1,253億円

2027年度計画 1,150億円

売上高

963億円

2027年度計画 1,130億円

営業利益(営業利益率)

30(3.1%)億円

2027年度計画 35億円(3.1%)

前中期経営計画
成果と課題

成 果

- ▶ 成長性の高い市場や主要顧客への営業リソースの集中投入による過去最高の受注高更新
- ▶ 海外大型プロジェクト受注。本社からの支援・管理体制の強化
- ▶ 水インフラ事業において営業・技術、製造、工事の各部門間のデータ連携によるリードタイムの短縮及び生産性向上に寄与

課 題

- ▶ 豊富な受注残を着実に収益につなげるための人員確保や生産性向上
- ▶ 広域連携やコンセッション等の官民連携事業(PPP)への対応能力の強化
- ▶ 原材料価格の高騰や人件費の上昇等、製品・工事原価の増加に対応する原価低減と売価への反映

機 会

- ・省エネや環境対応の製品・サービスに対する関心と需要の高まり
- ・社会インフラや国土防衛等における新設需要や機器更新による一定水準の国内公共投資の維持
- ・アジア諸国における都市鉄道の需要継続
- ・自治体の広域連携や官民連携事業(PPP)案件等の増加傾向

リスク

- ・工期延期等に伴う配置技術者の拘束期間長期化(受注機会の喪失)
- ・原材料価格高騰によるコスト圧迫や人件費上昇の売価への反映遅れ
- ・大型案件における工期延期
- ・性能発注の流れが強まることによる市場競争の激化

強 み

- ・お客様に寄り添った製品開発、システム提案力
- ・システム・プラントの設計から維持管理までを担うトータルサービスと豊富な大型プロジェクト実績
- ・維持管理、保守・サービス、機器更新まで見据えたライフサイクルにわたるエンジニアリング力

「中期経営計画2027」における成長戦略

各事業分野において需要拡大が想定される領域に経営資源を集中投入し、生産性、収益性を高めていきます。

社会システム事業では利益重視とメンテナンスストック確保を両立するとともに、保守サービス部門とも連携を深めます。

電鉄事業では2024年度に受注したインド高速鉄道案件の確実な履行と進捗管理を行うとともに、引き続き海外大型案件の受注を目指します。

水インフラ事業では官民連携事業の拡大を見据え、AI等の新技術導入や外部とのパートナーシップ等の体制強化を進めます。

成長戦略 1

電鉄システム:信号モニタリング技術の開発

明電舎が世界で初めて画像解析ベースで実用化し、多くの鉄道事業者採用いただいている架線検測装置の技術にAI(人工知能)技術を組み合わせることで、電車線を構成する様々な金具から信号設備までを対象として、設備状態のモニタリングを可能とする鉄道診断システムの開発を推進します。このシステムは営業車から保守用車まで広く搭載可能なため、これまで人手に頼っていた検査をデジタル化し、鉄道事業者の働き方改革及び鉄道の安全運行に貢献します。

成長戦略 2

水インフラ:
総合エンジニアリング体制の構築

地方自治体の財政難や労働人口の減少により事業環境が大きく変化する中で、人財確保や地域連携が急務となっております。これに対応するため明電グループのみならず、地元企業との更なる連携強化により新たな人財の確保や原価低減を図るとともに、機器・工事・運転維持管理・保守までをワンストップで担う総合エンジニアリング体制の構築を目指します。



社会システム分野にも納入の多い配電盤



水処理施設 O&M業務の様子

事業戦略を通じたマテリアリティの解決

1 安心・安全・便利な社会の実現

国内初工業用水道事業におけるウォーター-PPPLレベル3.5「ふじさん工業用水道事業新ポンプ場整備を伴う包括民間委託事業」の契約締結

2024年度実績

2 安心・安全・便利な社会の実現

道路、官公庁施設等の各種インフラ老朽化に伴う強靱化、更新需要に対する受注活動強化

中計2027展開

3 カーボンニュートラル社会の実現

新興国での渋滞解消に向けた大型電鉄プロジェクトに対する受注及び履行管理の強化

中計2027展開

TOPICS

インド高速鉄道1号線向け変電設備の受注

明電舎とインド現地法人 MEIDEN T&D (INDIA) LIMITED(以下、MTD)は、インドのラーセン・アンド・トゥープロ社(Larsen&Toubro Ltd.)より、インド初となる高速鉄道向けの変電設備を受注しました。

本プロジェクトは、ムンバイからアーメダバード間508kmを結ぶ路線の建設工事で、明電舎とMTDは12

か所の変電所を含む、全45ポスト向け変電機器を受注しました。明電舎が切替用開閉器と配電盤、MTDが変圧器を製作します。明電舎とMTDは2017年に受注した「デリー〜ムンバイ間貨物専用鉄道」においても、計287台の変圧器を納入しており、この知見を活かした生産やプロジェクト管理を進める方針です。